

2005年 春号

ぷらう 32号



発行：TEACCH プログラム研究会

巻頭の言葉

TEACCH 研会長 内山 登紀夫（よこはま発達クリニック）

いよいよ発達障害者支援法が施行されることになった。自閉症・発達障害支援センターが各地に設置され、自閉症やアスペルガー症候群、注意欠陥/多動性障害などの関連障害への関心は高まってきている。発達障害を支援する人々も増えてきたし、色んな治療技法も、それぞれに進歩してきているように思える。最近参加したあるシンポジウムでは行動療法の専門家が見事なプレゼンテーションをされて感銘を受けた。行動療法というと TEACCH の敵みたいにいる人もいるけど優れた専門家はどの領域にもいるものだと思う。TEACCH でやっていますという施設や学校でも、素晴らしい実践をされている所もあれば、目を覆いたくなるような「TEACCH」をやっている所もある。

今更ながら TEACCH 研究会の目的とはなんだろうか？と自問してみたくなった。10年前と比べると TEACCH に関する情報を入手することは随分容易になった。TEACCH 研に入会する目的は人それぞれだろう。ただ TEACCH 研究会と敢えて研究会と名乗っていることには、それなりの意味があると思う。TEACCH 研のリーフレットにもあるとおり、TEACCH 研を創った人たちの原点は「自分の住む地域にこれを持ち帰って、まずできることから始めていこう。そして地域での実践を互いに共有する機会を定期的に持ち、皆で励まし合っていこう」という想いにあったはずである。TEACCH 研は会員相互の研鑽の場である。TEACCH から学びつつ日々の実践に取り組むなかで生じた疑問点や工夫を互いに建設的に批判しあい、より良い実践に結びつけていくことを目標にしたい。われわれは TEACCH から学ぶことで色んなアイデアをもらった。しかし与えられた条件のもとで最善の方法をとっているかどうかは誰にもわからない。実践がうまくいかない時に、人手が足りないから、上司の理解がないから、親の理解がないからなどと言い訳することはできる。最後に「ノースカロライナじゃないからしょうがない」と言って、すましてないだろうか？われわれは日本のどこかで実践をしている。実践がうまくいかない時に近くの仲間の意見を聞くことは最低限必要だろう。一人の頭で考えられることはたかがしれている。そして、時には TEACCH 研の仲間の意見を求めることもできるだろう。さらに一年に一度くらいは、実践大会で多くの人の意見を聞いて臨床の質を高めることも目指して欲しい。自分の実践がうまくいかないのは「ノースカロライナじゃないから」じゃなくて、単に自分の工夫が足りないからかもしれないから。さらに自分がやってみてここ良かった、こうすればうまくいったという実践や、こんなことを学んでとても役に立ったということがあれば、是非 TEACCH 研で披露して周囲の人に伝えて欲しい。そうすることが、日本の自閉症スペクトラムの人の役に立つのだから。もう一度確認しておこう。

TEACCH 研は会員相互の自己研鑽の場である。相互に学びあうことによって、日本の自閉症療育の質を高めていこう。

佐々木正美先生、保健文化賞と朝日社会福祉賞をダブル受賞！

常任理事 藤岡 宏（つばさ発達クリニック）

TEACCH 研創立の時より、当会の顧問をずっとお引き受けくださり、私どもをあたたくご支援くださっている佐々木正美先生がこのたび、栄えある保健文化賞（第56回）と朝日社会福祉賞のダブル受賞に輝かれました。保健文化賞は「自閉症を主に発達障害の医療、教育、福祉等の問題への取り組みと活動の実践」に対して、朝日社会福祉賞は「自閉症の人と家族を支援する療育方法の実践と普及に努めてきた功績」に対してそれぞれ贈られたもので（第一生命、朝日新聞社の各ホームページより引用）、先生がこれまでたゆまず歩んでこられた道のりの大変さと、吸い寄せられるようなあたたかいお人柄が、多くの人たちに勇気と感銘を与えてきたことの証左でもあります。

先生の受賞を報じた新聞記事は、「TEACCH は、視覚的な方法で必要な情報を伝え、障害を持ったまま幸せに生きることを目指している。福祉、教育などにも応用が広がり、今は自閉症療育の主流だ」と論じ、「（佐々木先生は）精神科医師として、子どもの発達障害に取り組んできた。特に自閉症の療育で、米国のエリック・ショプラー博士らが提唱した「TEACCH」（ティーチ）と呼ばれる方法を83年に日本に導入、普及させた」として、先生のご功績をたたえています。（2005年1月3日付朝日新聞）

佐々木先生、ダブル受賞、本当におめでとうございます。これからもお身体を大切に、ますますのご活躍と当会のさらなるお導きを、心よりお願い申し上げます。

第6回実践研究大会を終えて・・・

京滋支部 野畑 光代

今も会場に響いたあの大きな拍手がよみがえってきます……。

底冷えのする京都にお越しいただいたみなさん、ありがとうございました。

1月22日、23日 ハートピア京都で第6回実践研究大会を開催しました。

全国各地から150名を超える参加者がありました。

「お久しぶり～。」「お元気でした～?」「子どもさん、大きくなったでしょうね……」などなど、まるで同窓会のような雰囲気の中、大会はスタートしました。

こういうアットホームな雰囲気が TEACCH 研のいいところだと私は思っています。

今回の大会では全体会で中山清司氏（横浜やまびこの里）と大塚晃氏（厚生労働省社会援護局障害保健福祉部企画課 障害福祉専門官）に『TEACCH のシステム』や『発達障害支援の新たな取り組みについて』についてお話をさせていただきました。また、滋賀県自閉症・発達障害支援センターの井深允子氏にその実践を発表していただきました。ノースカロライナや横浜、滋賀県のように取り組み、変わり行く日本の福祉制度について聞く中で私たちが直面している課題が見えてきたような気がします。とりわけ、昨年末にできた『発達障害者支援法』について、せっかくできた『道具』なので、その使い方をよく検討し、効果的に使っていきたいものです。なんととっても今が『旬』、使い時ですから！！

分科会は『高機能自閉症の方への支援を考える』『地域での暮らしの支援』『TEACCH はなぜ誤解されるかの』という3つのテーマでそれぞれ、活発な意見交換が行なわれました。盛り上がったところで時間切れ……となった分科会もあり、来年、福岡での大会で『続編』を実施していただくよう、お願いしているところです。

参加者の中には「他の分科会のようにすみ知らなかった…」という声も耳にしており、交流の時間がとれなかったことを申し訳なく思っています。

2年前の理事会で「冬の京都に行ってみたいよね…」という某理事の一言がきっかけで京都で開催することが決まったのですが、それからずっとプレッシャーを感じてきました。でも、去年の4月に実行委員会を立ち上げ、仲間とともに活動を始めるとそのプレッシャーも徐々に軽くなっていったような気がします。むしろ、力を合わせてひとつのことに取り組む楽しさを感じるようになりました。

もちろん、本業をもちつつ、大会の準備を進めるのは大変なこともありました。でも、そんな大変さも参加者のみなさんの満足そうな笑顔が吹き飛ばしてくれました。

大会が無事、終了した今、京滋支部がひとまわり大きく成長し、その結束力もより強くなったことを実感しています。

最後になりましたが、大会に参加、ご協力していただいたみなさんに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

そして、来年、福岡でお会いしましょう!!

第6回 TEACCH実践研究大会に参加しました

東京支部 大賀 博子

1月下旬の京都は「とっても寒い!!!」とあちらこちらでうかがいながらも、年に一度の全国大会に東京から新幹線で足を運びました。神奈川、大阪、と今回で3回目の参加になります。

自分は知的障害養護学校小学部に勤務しています。時々参加させていただいている東京支部での講演会や神奈川支部での勉強会でTEACCHに関する講義を聴いたり、TEACCHや自閉症の方と関わり、人々と出会って言葉を交わすことは、毎回毎回、自分にとってはとても有意義なものになっています。今回も楽しみに京都を訪れました。

二日間にわたる研究大会の中、わたしにとってとりわけ印象的だったのは、二日目、第一分科会「高機能自閉症の方への支援を考える～現状や課題について」でした。

養護学校の教員の方の発表を聞き、京都府立養護学校での実践はとても勉強になりました。今の自分の現場では残念ながら、巡回相談や指導計画作りに携わる場面などもまだなく、特別支援教育に向けての制度の整備や、意識づくりの研修が始まったばかりのように感じています。同業の方のお話を聴くことができ、今の自分の課題をあらためて明確にさせられたように思いました。

また当事者の方のお話がとてもよかったです。日常生活だけでなく、就労におけるご本人のご苦労ははかり知れないものがあるんだなと思いました。コミュニケーション力を必要とする就職面接場面での困難、また就労できて職場の対人関係での困難などもいくつか挙げられていましたが、「理解のある人がいるだけで、大分楽になった」とも話されていました。でもその「理解のある人」というのは、「障害について理解している人」ばかりを指すのではないのだそうです。その方は「馬鹿にする目で見ないこと」という言葉で話されていましたが、当事者の方を不用意に傷つけたり不必要に生きづらくさせていることに、周囲の、人に対する最低限の姿勢として欠けたものがあつたのかと思うと、支援者という職業的な視点からだけでなく、社会人の一人としてとても胸が痛みました。

知的障害養護学校のお子さんに対してよりよい実践をしていきたい、という気持ちでTEACCHと出会ったわたしではありますが、障害についての理解や方法を深めるだけでなく、自分自身の生き方についてまで考えさせられる機会が多いように感じています。お子さんの理解者になり支援していく上で、その人にとってのつらい部分を知ろうとすること、目の前の相手を尊重することなど、あらためて大事にしていきたいと思いました。そしてまた、それは自閉症の方に対してだけでなく、自分の家族とか同僚とか身近な人に対する自分自身の基本的な姿勢も見つめ直さな

ければ、という気持ちにまで発展したのです。

今回の感想についてうまく書き記すことができなくて歯がゆく思いますが、この二日間は自分にとって本当に充実した時間になりました。1月の京都は、やっぱり寒かった!!!ですが、心はとてもあたたかくなり、それから京都の美味しいお料理に体も喜んで東京に帰ってこれることができました。

また次回参加できることをとても楽しみにしています。お世話になった関係の方々、本当にありがとうございました。

実践研究大会に参加して

愛知支部 野藤 早苗

第6回実践研究大会はそうそうたる顔ぶれの中、熱気に包まれた会場で始まりました。この大会の内容を見て随分前からとても楽しみにしていた私は、本当に時間のたつのも忘れて講演を聞き入っていました。そして、どのお話もその内容の濃さには驚かされ、とても密度の濃い有意義な2日間を過ごすことができました。

私は普段は施設に勤務していますが、なかなか法律関係の情報が入りにくく、また理解しづらい点も多く敬遠しがちだったのですが、厚生労働省の福祉専門官による発達障害者支援法の説明や障害者自立支援給付法についての話はとても勉強になりました。さらに現在のような途切れた支援ではなく、一貫した支援ができるようにするため文部科学省との連携を図りたい、とのお話には「そうだ、そうだ」と深く頷きながら今後の展望に光を感じることができました。

また2日目の分科会では第2分科会「地域での暮らしの支援」に参加させていただきました。そこでもやはり人と人とのつながり、ネットワーク作りの重要性を強く感じました。障害のある方が地域で暮らしていこうと思えば、様々な支援が必要です。それも、やはり支援者によって変わる途切れた支援ではなく、その人が中心の一貫したサポートが必要なのです。それには今後連携の軸になるべき地区のコーディネーターがもっともっと増えなければと実感しました。

そしてもう一つ、印象に残っているのが懇親会です。初めて参加させていただき、もっと硬い会を想像していた私は皆さんの芸達者ぶりに目を丸くしてしまいました。皆さん器用ですねえ・・・(笑)

そんな元気あふれる会員の皆様からたくさんの元気をもらい、懇親会では人と人とのつながりの良さを感じました。そして私も次回までに何か芸を仕込まなきゃ・・・とも!?

本当にあっという間過ぎてしまいましたが、連携の重要性を強く感じTEACCHという土台の元、色々な立場の人が手をつないでいけたら「自閉症でOK」という世の中もそう遠くはないと思うことができた貴重な2日間になりました。

最後になりましたが、今回の研究大会の実行委員の皆様ありがとうございました。

実践研究会の感想

鳥取支部 寺本 典子

「京都で2日間」という言葉に誘われて行こう行こうと仲間といっしょに申し込みました。プログラムを見ても、実践の発表、福祉の立場からのお話、発達障害支援センターの方のお話、当事者の方のお話ととても多彩で何ヶ月も前から楽しみにしていました。

情緒障害児学級を担任し、「これでいいのかしら？」で過ごしている毎日。教科の学習、交流、思春期、友達、自立、告知、、、などなど課題に囲まれている毎日。講演の中で「違いがあること

はいいことなんだと認めること」「自閉症を理解し、それを受け入れて好きになること」「自閉症の文化を尊重すること」「私たちが歩み寄ること」などの言葉が心に残りました。

わかっているつもりでも時々こうして会に参加することで耳から聞き、文字にすることによって、学級での毎日を振り返ることができます。そしてこの得たことをもっとたくさんの人に分かってほしいという思いを強くしました。それは自閉症の児童の支援は特別支援教育のノウハウとしても活かしていけますし、すべての児童の支援になるということでもあると思うからです。あらためてそのことを伝えなくては、、、と思いました。

教員の立場ではなかなか聞く機会のない福祉の話を厚生労働省の大塚氏がとても分かり易く話してくださったことも有難かったです。

2日目の分科会は高機能自閉症の第1分科会を迷わず選びましたが、第2、第3分科会の内容も私にとっては興味深いものでした。参加した分科会で印象に残った言葉は、荒木氏の「刀は武士の魂、こだわりは自閉症の魂」その一言でした。それが自閉症の文化でしょう。それに誇りをもって、自信を持って人生を歩んでほしい。そういう人が増えてほしい。そして我々のようにそのことを理解し、支える人々がもっと増えてほしいと願っています。

TEACCHプログラム研究会 平成17年度 総会の報告

1月22日、ハートピア京都で平成17年度 総会を開催しました。

16年度の活動・会計報告及び17年度の活動計画と予算案について提案をし、承認を得ました。

会計報告及び予算の中にあります『特別会計積立金』は会員に還元できる事業や活動に使うことを目的にしたもので、その具体的な用途については総務委員会及び理事会で継続審議中です。総会ででた「ホームページの作成」という意見は実現に向けて今後、具体化していきたいと考えています。

また、「トレーニングセミナーが隔年実施なのはなぜか？セミナーを受講するにはどうしたらいいか？」という質問もできました。その質問に対しては副会長より「過去においては毎年実施していたが、準備が大変で開催支部の負担も大きく、隔年実施になった。受講については希望者が多く、競争率が高くなっているのが現状である…」との回答がありました。

本会も13支部 総会員数1,888名の大きな組織となり、その運営についても見直す時期に来ています。

みなさんのご理解、ご協力を得て、会の発展・充実を図っていききたいと思っています。どうぞ、よろしくお願ひします。

事務局：野畑 光代

平成17年度第一回理事会 報告

1月22日（土）10：00～ ハートピア京都で平成17年度第一回理事会を行いました。

【議題1】平成16年度活動及び会計報告について（※総会資料参照）

★ 新澤理事より2月に開催した15周年記念事業「TEACCHカンファレンス イン 大阪」の会計の最終報告があり、監査を受けた後、残金は『特別会計積立金』に入れることを決定。

- ★ 残っている大会録については各支部に 30 部ずつ配布することと本部保管することを決定。
- ★ 8 月に開催した「愛知トレーニングセミナー」の報告が愛知支部より行われた。今回は会場費が無料であったことが会計上、大きかったが、今後については受講料の見直しも検討していく。

【議題 2】平成 17 年度活動計画及び予算案について（※総会資料参照）

- ★ 第 4 回実践研究大会の会計報告が神奈川支部より行われた。大会録印刷のし直しを行ったために ¥407,582 の損失がでた。この分は本部会計より補填することを決定。

【議題 3】特別会計積立金について

- ★ 会員に還元できる事業を行うことを目的とした積立金であり、その具体的な用途については総務委員会を中心に案を作り、理事会に提案、検討を行う。
- ★ その額については毎年、定額を計上するのではなく、年度ごとに理事会で検討し、総会で承認を得る。

【議題 4】本部会計の業者委託について

- ★ 本研究会も 13 支部 1888 名の会員を抱える大きな組織になり、事務局の負担も大きくなってきているので、その組織や運営方法を見直す必要がある。
- ★ 会費や名簿の管理などを業者に委託することも含め、運営方法の改善について継続的に検討していくことを決定。
- ★ 会費、名簿の管理を業者に委託した場合にはこれまで支部ごとに徴収していた会費を本部が徴収し、その後、所属会員数に基づき、支部におろしていくことになる。
- ★ 今後については業者に委託する場合の費用について見積もりをとり、総務委員会で検討、理事会へ提案し、検討をはかる。

【議題 5】ぷらう春号の編集について

- ★ 主な内容と原稿締め切りについて確認。
- ★ ぷらうの記事の転載などは引用元を明記してもらうことを条件に許可することに決定した。

【議題 6】就労支援ビデオの吹き替え版について

- ★ 支部学習会用として作成する。
- ★ その費用は特別会計積立金より支出する。

【議題 7】第 7 回実践研究大会について

- ★ 福岡で開催することを決定した。

| TEACCHプログラム研究会 平成16年度会計報告 | |
|-----------------------------|--|
| 平成17年1月22日 | |
| *会計年度 平成16年1月1日～平成16年12月31日 | |
| 収入 | |
| 前年度繰入金 | 990,164 |
| 平成16年度 会費 | 1,888,000 |
| （内訳） | |
| 北海道支部 | 75,000 |
| 東京支部 | 105,000 |
| 神奈川支部 | 170,000 |
| 愛知支部 | 194,000 |
| 石川支部 | 283,000 |
| 京浜支部 | 250,000 |
| 大阪支部 | 100,000 |
| 兵庫支部 | 148,000 |
| 鳥取支部 | 1,000 |
| 香川支部 | 1,540,000 |
| 福岡支部 | 59,000 |
| 熊本支部 | 164,000 |
| 第4回実践大会録売り上げ | 103,500 |
| 合計 | 2,981,667 |
| 支出 | |
| 第1回理事会交通費(2月) | 341,700 |
| 第2回理事会交通費(6月) | 323,490 |
| 理事会雑費 | 27,300 |
| 理事会雑費 | 9,200 |
| 総会資料代 | 3,045 |
| トレーニングセミナー(愛知)補助 | 200,000 |
| 第6回実践研究大会(京浜)補助 | 200,000 |
| ぷらう編集費 | 1,000 |
| ぷらう発送費(各支部へ補助) | 302,080 |
| 雑費 | 6,635 |
| 特別会計積立金 差 | 900,000 |
| 合計 | 2,314,992 |
| ※は会員に還元する事業のための積み立て費用 | |
| 収入-支出 | 2,981,667-2,314,992=666,675 |
| *残金 666,675円は次年度に繰り越します。 | |
| 以上のとおり 相違ありません。 | |
| 平成17年1月 5日 | TEACCHプログラム研究会 会計 東 敦子 (印) |
| 平成17年 1月 7日 | TEACCHプログラム研究会 会計監査 野村 孝士 (印) 会計監査 諏訪 利明 (印) |

| TEACCHプログラム研究会 平成17年度予算 | |
|---------------------------------|------------|
| 平成17年1月22日 | |
| 収入の部 | |
| 前年度繰越金 | ¥666,675 |
| 平成17年度 会費 | ¥1,509,000 |
| 【内訳】 | |
| 北海道支部 | ¥60,000 |
| 東京支部 | ¥84,000 |
| 神奈川支部 | ¥136,000 |
| 愛知支部 | ¥155,000 |
| 石川支部 | ¥230,000 |
| 京浜支部 | ¥80,000 |
| 大阪支部 | ¥200,000 |
| 兵庫支部 | ¥38,000 |
| 鳥取支部 | ¥107,000 |
| 香川支部 | ¥47,000 |
| 福岡支部 | ¥131,000 |
| 佐賀支部 | ¥59,000 |
| 熊本支部 | ¥182,000 |
| 第4回実践研究大会録売り上げ | ¥404,400 |
| 第6回実践研究大会録売り上げ | ¥500,000 |
| 合計 | ¥3,080,075 |
| 支出の部 | |
| 理事会交通費(2回分) | ¥700,000 |
| 理事会会費(2回分) | ¥30,000 |
| 理事会雑費(2回分) | ¥20,000 |
| 第4回実践研究大会録補填 | ¥407,582 |
| 第6回実践研究大会録制作費 | ¥660,000 |
| 第7回実践研究大会補助費 | ¥200,000 |
| ぷらう発送費(各支部へ補助) | ¥241,440 |
| 【内訳】 | |
| 会員1,509名×¥80×2 | |
| 特別会計積立金 | (¥500,000) |
| 予備費 | (¥501,053) |
| 合計 | ¥3,080,075 |
| ※会費収入、ぷらう発送費は各支部の16年度会員数の8割で算出。 | |

事務局：野畑 光代

各支部活動計画

①北海道支部活動計画について

北海道支部では、1月18日（火）に支部総会が行われました。総会ではこれまでも年間5回行っている定例の勉強会と、会報誌の発行について承認されました。勉強会の予定は以下の通りです。

| | | |
|-----|----------|--------------|
| 第1回 | 1月18日（火） | 「構造化は何のために？」 |
| 第2回 | 5月10日（火） | 「幼稚園での実践」 |
| 第3回 | 7月12日（火） | ※札幌で開催を計画中 |
| 第4回 | 9月13日（火） | 「学校教育での実践」 |
| 第5回 | 11月8日（火） | 「家庭と学校の連携」 |

これまで北海道教育大学函館校を会場としておこなってきましたが、地域の広域性からすべての会員が参加することはできませんでした。今年度は7月の定例勉強会を札幌市で実施することを予定しています。（その他の勉強会の会場は、北海道教育大学函館校を予定しています。）

《問い合わせ先》

TEACCH プログラム研究会 北海道支部 事務局

〒041-0802 函館市石川町90-7 自閉症・発達障害支援センター あおいそら内

Fax (0138) 46-0857 / E-mail aoisora@ms6.ncv.ne.jp

②東京支部年間事業予定

基礎講座.....

- 4/23（土） ①自閉症の特性 ～具体的な事例を交えて～
講師：田中浩一郎先生（京都市児童福祉センター）
会場：全郵政会館（千駄ヶ谷） 定員 100名
- 5/21（土） ②評価 ～*PEP-Rをつかって、*直接観察から～
講師：安倍陽子先生（横浜市東部地域療育センター）
会場：東京ウイメンズプラザ 定員 50名
- 6/25（土） ③構造化
講師：中山清司先生（横浜やまびこの里仲町台センター）
会場：未定 定員 50名
- 12/11（日） ④コミュニケーション
講師：中山清司先生（横浜やまびこの里仲町台センター）
会場：未定 定員 50名

特別講義.....

- 8/24（水） 専門職のための二日間連続講座
～8/25（木）講師：佐々木正美先生（川崎医療福祉大学） 詳細未定

実習.....

- 11/5（土） 連続ワーク モデルクラスセッション
～6（日） 講師：中山清司先生（横浜やまびこの里仲町台センター）

基礎講座①～③すべて受講された方対象。定員 20 名。

詳細未定

講演会.....

- 11/20 (日) 講演会 みっつの視点から考える自閉症スペクトラムへの支援
～家庭への支援・先生への支援・本人への支援～

講師：服巻智子先生 (NPO法人それいゆ相談センター)

詳細未定

.....

③神奈川支部事業計画

| 期日 | 内容 |
|------------|--|
| 1月22日～23日 | 第6回実践研究大会 N京都 |
| 2月16日 (水) | 【共通】神奈川支部総会+「最新 TEACCH 情報」 社団法人日本自閉症協会副会長 氏田 照子氏 |
| 3月16日 (水) | 【基礎】「TEACCH プログラムの理念」 講師 諏訪 利明 【応用】「成人の余暇支援について」 |
| 4月13日 (水) | 【基礎】「自閉症の特性」 講師 諏訪 利明 【応用】「就労の場での支援」 |
| 5月11日 (水) | 【基礎】「構造化について」 講師 諏訪 利明 【応用】「高機能をめぐる連携」 |
| 6月 8日 (水) | 【共通】「構造化の応用—自立に向けて」 講師 諏訪 利明 【応用】「家庭での構造化」 |
| 7月13日 (水) | 【基礎】「評価について」 講師 諏訪 利明 【応用】「成人期の日中活動から」 |
| 8月中旬 | 【講演会】未定 |
| 9月14日 (水) | 【基礎】「PEP-R」 講師 諏訪 利明 【応用】「幼児期の支援について」 |
| 10月12日 (水) | 【基礎】「PEP-R②—結果からプログラムへ」 講師 諏訪 利明 【応用】「学齢期の支援について」 |
| 11月 9日 (水) | 【基礎】「AAPEP」 講師 諏訪 利明 【応用】「課題作りの留意点」 |
| 12月14日 (水) | 【合同】「CARS—自閉症のおさらい」 講師 諏訪 利明 |

勉強会はすべて ふきのとう向生舎3階において18：30より開始

TEACCH プログラム研究会 神奈川支部事務局 宇山
〒242-0022 神奈川県大和市柳橋 5-2-7 県央療育センター内
【TEL】080-3250-2115 【FAX】046-269-0067
【e-mail】 teacchkanagawa@yahoo.co.jp

④愛知支部活動計画

愛知支部は4年目を迎えます。

始めは諸先生をお招きしての講演会が中心でしたが、理論から実践へと事例検討会も力を入れてきました。

昨年、一昨年のミニトレ、トレセミではTEACCHの実技も学ぶことが出来ました。今年は世話人が中心となって開催している小さな勉強会が地域に根ざし、支援者のスキルアップが出来るとよいと考えています。

17年度活動計画

- (1) 講演会 2/19 (土) 新澤伸子先生「自閉症の人とのコミュニケーション」*総会
5/14 (土) ハルヤンネさん
- (2) 実践報告会 6月11日(土) あおぞら玉木潤一郎さん
- (3) 事例検討会 7/23 (土) 助言：岡田先生
11月 未定
- (4) 講演と実習 10/22 (土) 諏訪先生
- (5) 託児 3回
- (6) 会報発行 2回
- (7) その他 勉強会支援 T-AICHI メーリングリスト

⑤石川支部活動計画

- 1月9日(日) 第3回 総会講演会 寺尾孝士さん(おしまコロニー星ヶ丘寮)
場所 金沢駅西健康ホール「すこやか」
- 1月22日(土)~23日(日) 第6回 TEACCHプログラム研究会実践研究大会(京都)
- 2月13日(日) 第17回例会
9:30~12:30 講演 小林宏明先生(金沢大学) アセスメントについて
事例報告 南尚美さん(金沢市立額小学校特学担任)
場所 金沢大学附属養護学校
- 3月6日(日) 講演会 長江清和さん(埼玉県八潮市立八幡小学校特学担任)
9:30~12:30 たんぽぽ学級からの発信
特別支援教育における障害児学級の可能性を探る
場所 金沢市教育プラザ富樫
- 4月17日(日) 第18回例会 事例検討及び事例報告
9:30~12:30 場所 金沢市教育プラザ富樫
- 5月15日(日) 第19回例会 養護学校の実践報告
9:30~12:30 場所 金沢市教育プラザ富樫
- 6月12日(日) 第20回例会 歯医者さんからの実践報告
9:30~12:30 場所 金沢市教育プラザ富樫
- 7月10日(日) 第21回例会 児童相談所からの報告 9:30~12:30 場所 未定
- 9月11日(日) 第22回例会 のぞみ小児科からの報告 9:30~12:30 場所 未定
- 10月2日(日) 講演会 講師 田中康雄氏 9:15~11:45 場所 未定
- 11月未定(日) 第23回例会 9:30~12:30 場所 未定
- 12月11日(日) 第24回例会 9:30~12:30 場所 未定

⑥京滋支部活動計画

今年度の例会では、実践報告を中心に話題を提供していただき、それを元に会員間で討議し、自閉症やTEACCHプログラムへの理解を深めたいと考えています。また同時に、日々の実践の中での疑問や行き詰まりを解消できる場にしていきたいと考えています。

- 3月 5日(土) 13:30~16:00 場所:草津市立市民交流プラザ
例 会「日中作業(作業場面)における構造化について」 話題提供:かいぜ寮 外山氏
- 4月 2日(土) 13:30~16:00 場所:野洲中央公民館
例 会「子どもたちに豊かな乳幼児期を過ごしてもらいたい!」
~自閉性障害児の乳幼児期の発達支援」 話題提供:わかば教室 中川氏 森岡氏
- 9月 3日(土) 13:30~16:00 場所:野洲中央公民館
例 会「できる事、したい事をつなげて生活しています」
話題提供:NPO 法人滋賀自閉症研究会たんぽぽ保護者 野澤氏
- 10月 1日(土) 13:30~16:00 場所:ハートピア京都(予定)
例 会「家庭における取り組み」 話題提供:京都府立桃山養護学校保護者 喜多氏
- 11月 5日(土) 13:30~16:00 場所:京都
講演会「ありのままに、あたりまえに、地域に生きて ~自閉症の息子と共に~」
明石 洋子氏 (社会福祉法人あおぞら共生会副理事長)
明石 徹之氏 (川崎市職員)
- 12月 3日(土) 13:30~16:00 場所:ハートピア京都(予定)
例 会 話題提供:やましな学園グループホーム

<問い合わせ先> TEACCHプログラム研究会京滋支部事務局 藤井 依子(所属:こじか教室)
FAX 077-562-8980 e-mail yori_fu@ybb.ne.jp

⑦兵庫支部活動計画

兵庫はTEACCHプログラム研究会を立ち上げたのは遅いのですが、それ以前1990年代の後半に、TEACCHの考え方を基本にした研究会が二つ始まりました。一つは、神戸市の「自閉症児のためのクラスルーム研究科」で、もう一つは篠山市・丹波市の「TAS(丹波自閉症協会)」の活動です。また、但馬の豊岡には「ライフ・ステーション豊岡」というTEACCHの考え方を基本に設立した幼児療育施設もあり、三田市、三木市、小野市、西脇市などの親の会も同じ方向で活動しています。さらに、加西市の希望の郷や丹波市の三美学苑、あるいは西宮市のななくさ学園などTEACCHの実践を積極的に学び、取り入れる施設も増えてきました。

兵庫TEACCHは、まずこれらの活動を緩やかにつなげるために、会員のメーリング・リストを作り、情報の共有をはかっています。また、神戸のクラスルーム研究科、丹波のTAS-P(親の会)、TAS-T(教師の会)など主催の研究会、講演会を協賛しています。ただ、これらはもともとTEACCH研の支部成立以前から会員制でやってきているので急な変更をしないように配慮しています。そのため、独自の支部活動はまだまだの段階ですが、今年度は先にあげた各組織の連携のためにも、兵庫TEACCH主催の講演会を開催したいと思っています。また、会員から「PEP-R、AA-PEPの講習会」をしてほしい、という声もあり、なんとか実現したいと思っています。

⑧大阪支部活動計画

(1) 定例会、公開講座予定

5月14日「TEACCHの理念と自閉症の理解」中山清司氏(アクトおおさか・横浜やまびこの里) ※ 終了後 総会

6月11日「評価からIEP」小林一恵氏(大阪府立精神医療センター松心園)

- 7月 2日「コミュニケーションと構造化の基礎」井上芳子氏（大阪市更生療育センター）
 9月10日「スケジュール・事例発表」（萩の杜）春田富貴子氏（高槻市立芥川小学校）
 10月 8日「余暇・事例発表」東田尚子（長居障害者スポーツセンター）西村氏（保護者）
 11月12日 公開講座「高機能自閉症者の理解と支援」（仮題）講師：服巻 智子氏 会場未定
 12月10日「生活・事例発表」（金剛ココロニー）
 定例会会場：堺市総合福祉会館 定例会時間：午後2時～午後4時30分

（2）トレーニングセミナー

受講対象者：大阪支部会員 日時：8月27日・28日 場所：わららか草部（堺市）
 トレーニングセミナー事務局：わららか草部 金銅秀詞

【大阪支部事務局】〒569-1054 高槻市大字萩谷 14-1 社福）北摂杉の子会 萩の杜内
 松上利男（清岡 愛・勝部真一郎）TEL(072)699-0099 FAX(072)699-0130
 ※問い合わせは月～金 9時～17時 なるべくFAXにてお願いします。

㊟鳥取支部活動計画

| | 鳥取 | 境港 |
|-----|---------------------------------------|-------------------------------|
| 1月 | トレーニングセミナー報告 | 輪読 |
| 2月 | トレーニングセミナー報告 羽合ひかり園自立課題発表 | 輪読と歯科受診情報交換 |
| 3月 | 学校での実践報告 | 輪読 スケジュールについて |
| 4月 | 総会 ・セミナー参加報告 | 同左、課題作り |
| 5月 | 連続基礎講座（1） 梅永先生講演会（自閉症協会と共催） | 同左、課題作り |
| 6月 | 連続基礎講座（2） | 同左、課題作り |
| 7月 | 連続基礎講座（3）（4） | 同左 |
| 8月 | ボランティア養成講座 | 同左 |
| 9月 | 実践報告（家族、学校、施設） | 実践報告 学校 |
| 10月 | 実践報告 | 実践報告 陽なた |
| 11月 | 実践報告 | 実践報告 施設 |
| 12月 | 実践報告 | 実践報告 家族 |
| 定例会 | 日時 第2月曜日18：30～21：00 場所 白浜交流センターホール | 日時 第4木曜日19：00～20：00 場所 陽なた |

㊟香川支部活動計画

※内容、講師は変更する場合があります。

- 2月22日 平成17年度新規会員総会
 「私の子育て近況報告&サポートブック最新情報」 丸岡玲子さん
 ※第6回実践研究大会（京都）報告
 3月20日 「その子らしさを育てる ～我が子を知ることと育てること」
 香川大学教育学部特別支援教室「すばる」 馬場 広充先生
 4月17日 「TEACCHプログラムについて～その考え方と実践例」
 ：香川大学教育学部附属養護学校 西村 健一先生

- 5月15日 座談会 <フリートーク>
6月19日 実践発表「成人期の実践～ワークプラザたんぼぼでの取り組みより」(仮)
ワークプラザたんぼぼ 生活指導員 飯間仙三先生
実践発表「始めよう“個別の教育支援計画”～ 関係機関との協働による実践」
香川東部養護学校 玉野伸江先生
7月17日 「身につけよう！子ども達とのやりとりを支えるテクニック
～コミュニケーションを促す場面の設計とかかわり方」
香川東部養護学校 高原淳一先生
9月18日 「余暇支援について」(仮)
香川丸亀養護学校 滝澤 健先生
10月16日 ☆公開講演会 「自閉症って何？～みんなで考えてみよう！」
発達障害児の暮らしをサポートする“まーのよろずや”代表 中谷正恵先生
※会員外の方もご案内します。
11月20日 「自立支援法でこう変わる障害児・者福祉、どう描く生活シナリオ」
障害児(者)地域療育等支援事業コーディネーター
生活支援センターのぞみ 草原 比呂志先生
12月18日 平成17年度末総会
「自閉症への医療面からのアプローチ」
： 香川大学教育学部教授 繪内利啓先生

⑪福岡支部 活動計画

| 月 | 基礎 | 実践 |
|--------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 1月 | TEACCH実践研究大会参加 | |
| 2月 | 自閉症の特性理解 | 実践研報告会・意見交換会 |
| 3月 | TEACCHプログラムって何？ | 実践研究報告「家庭支援の効果」 福岡教育大学大学院 九十九・伊藤氏 |
| 4月 | 米国ワシントン大学視察報告 自閉症早期発見、早期介入について | 福岡教育大学 納富恵子先生 |
| 5月 | 評価と構造化 | 構造化計画を立ててみよう |
| 6月 | 自立課題について | 評価に基づいて自立課題を作ろう |
| 7月 | 丸岡玲子さん講演会 (TOUCH主催・TEACCH研後援) | |
| 8月20日 | 自閉症セミナー (志摩学園と共催 ・ 内容検討中) | |
| 9月 | 自閉症のコミュニケーション | コミュニケーションサンプリングと 目標設定について |
| 10月 | 行動管理 | 実践報告・みんなで考えよう |
| 11月12日 | (仮称)自閉症セミナー(福教大治療教育センター・国立特殊教育研究所主催) | |
| 12月 | 総会・記念講演会 | |

◎ 事務局変更のお知らせ 新しい事務局 〒819-1305
糸島郡志摩町大字馬場1079-8 社会福祉法人 のぞみの里 志摩学園内
TEACCHプログラム研究会福岡支部事務局 担当(末原・内田)
TEL/092-327-2929 FAX/092-327-2930

⑫佐賀支部活動計画

佐賀支部の活動としては、研修会7回、事例発表3回、講演会を2回計画しています。研修会では、初心者の人に自閉症を理解しTEACCHを基にした支援法の基礎を学んでもらうことを目的としています。内容としては、自閉症の理解、行動療法、物理的構造化、スケジュール、ワークシステム、視覚的構造化、コミュニケーション支援などで、ベテランを講師に迎え、分かりやすい講義と実習を取り入れることで能動的な参加を目指しています。さらに基礎を学んだ人には、事例発表でアドバイスや相談を受けながら実際の学校や施設で実践してもらい発表してもらいます。実技を通して実践、問題解決、発表技能を養うことを目的としています。講演会は、TEACCHを基にした先進的な取り組みをしている講師を招いて広く親や専門家に対しての啓発活動を目指しています。

| 期日 | 講義 | | 講師 | 事例発表 |
|--------|---------------|----------|---------|------------|
| | 内容 | トピック | | |
| 4月16日 | 自閉症の理解 | 支援哲学 | 服巻繁 | |
| 5月21日 | 問題行動の改善 | 行動療法 | 伊藤啓介先生 | |
| 6月11日 | 高機能自閉症 | 講演会 | 森口奈緒美先生 | — |
| 8月20日 | 構造化の概要 | 構造化全般 | 水野敦之 | それいゆ：佐藤 |
| 10月15日 | コミュニケーション | PECSに基づく | 服巻繁 | それいゆ：石丸、山崎 |
| 11月19日 | スケジュール・手順書等 | 地域・余暇 | 水野敦之 | それいゆ：秋月 |
| 12月10日 | TEACCH全般 | 講演会 | 佐々木正美先生 | — |
| 1月28日 | IEP・家事 | 家庭－学校連携 | 進藤久見子 | 伊万里養護：三原 |
| 2月18日 | ワークシステム・トークン等 | 作業・現場実習 | 進藤久見子 | それいゆ：西原 |

⑬熊本支部活動計画

| | |
|------------|---|
| 1月10日(土) | 総会 および ミニセミ報告Aグループ |
| 2月12日(土) | ミニセミ報告Bグループ |
| 4月16日(土) | 基礎講座1 (初級者向け)「自閉症の特性と支援」 |
| 7月16日(土) | 基礎講座2「構造化と実践」 |
| 期日未定(8～9月) | 基礎講座3 コミュニケーションの特性と指導 |
| 10月15日(土) | 実践報告会(学齢・成人・成人) |
| 10月29日(土) | h18,2,18~19実施予定ミニセミ「構造化と家事スキル」 事前学習会「課題分析」 服巻繁先生 |
| 11月26日(土) | 講演会(熊本10周年記念) 佐々木正美先生 |